

(第6条関係)

事業計画書

事業名	こども福祉フェスタ事業
団体名	Familink*

取り組もうとする松戸市のテーマ（課題）	<p>現在、医療の進歩で今まで救命できなかった先天性疾患や小児期疾患が救命できる。また、人工呼吸器を装着したまま在宅へ移行する児も増えている。（出典；小沢浩：療育／小児リハビリテーション現状と課題，総合リハ44-9，2016）また、国内における身体障害者数は393万7千人、知的障害者数が74万1千人と報告されており、その数は年々増加している傾向にある。その多くの児が在宅生活を送っていることから、在宅における支援の役割は高まってきている。（出典；内閣府 平成26年版障害者白書）</p> <p>松戸市内においても身体障害者手帳を取得している方は平成27年度統計で13184名おり、その中でも肢体不自由は6938名と半数をしめている。また、18歳未満においては341名で肢体不自由229名となっている。（出典；平成28年版統計書（社会保障））</p> <p>身体に障害を持った方々が在宅で生活をしていく上で、福祉機器や補装具、日常生活用具の利用は、生活の自立や生活の質を向上させていくために必要となる。しかし、実際の福祉機器を展示している箇所は少ない。また、年数回実施している展示会は都内開催のものが多く、障害児者が赴くには遠いことも多い。そのため、最適な福祉機器に自身・家族が見つかる機会は少ない。また、重度障がい児は自ら動く経験やそれを通してあそぶといった経験が乏しくなる。</p>
事業の目的	<p>今回の事業では、重度障がい児が自ら動く経験をするための電動機器や除重力での活動機器を展示・体験し、子ども達の経験を促すことを目的としている。</p> <p>また、重度障がい児やその家族に福祉機器の正しい知識を啓蒙し、市内開催とすることで市民が福祉機器や障がい児の生活などについて知る機会につながる。</p>

事業内容	<p>1 事業内容</p> <p>1 福祉機器・用具の体験・展示会</p> <p>2 各支援団体の展示・相談会</p> <p>3 ミニ講演会 2本</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松戸市内の会場にて福祉機器事業者を集めての体験・展示会を開催する。 ・展示会の中で、福祉機器業者のみではなく、リハビリテーション団体や訪問看護団体などの展示・相談会も開催する。 ・講演会は「障がい児への遊びについて（仮）」、来場者向けの講演会を開催する。 ・対象：松戸市民、松戸市内の学校などに通学されている方、近隣市に在住している方 ・事業評価：来場者アンケートを実施していく。 <p>2 スケジュール</p> <table border="1" data-bbox="480 920 1378 1375"> <thead> <tr> <th></th> <th>具体的な取り組み</th> <th>実施体制、対象、場所など</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4月</td> <td>開催案内送付</td> <td>対象児の関係機関、病院、福祉施設、行政、保健所等</td> </tr> <tr> <td>4-6月</td> <td>開催準備</td> <td>出展業者や団体の選定</td> </tr> <tr> <td>7月</td> <td>福祉機器展開催</td> <td>会場：まつどふれあい 22（案）</td> </tr> <tr> <td>8-9月</td> <td>振り返り</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10月</td> <td>次年度計画</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など	4月	開催案内送付	対象児の関係機関、病院、福祉施設、行政、保健所等	4-6月	開催準備	出展業者や団体の選定	7月	福祉機器展開催	会場：まつどふれあい 22（案）	8-9月	振り返り		10月	次年度計画	
	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など																	
4月	開催案内送付	対象児の関係機関、病院、福祉施設、行政、保健所等																	
4-6月	開催準備	出展業者や団体の選定																	
7月	福祉機器展開催	会場：まつどふれあい 22（案）																	
8-9月	振り返り																		
10月	次年度計画																		
既存の事業からステップアップする部分																			
事業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉業者・関係団体ブースを10ブース以上展開 ・福祉機器展参加者：150名以上 ・アンケートにて、次年度以降の継続的な開催を望む声を拾い上げ、次年度以降の開催につなげる 																		
今後の展望	<p>今回の助成をきっかけに多くの障がい児者の皆様が色々な業者と出会えるような機会を定期的に市内で開催していけるようにしていく。</p> <p>また、障がい児をお持ちのご家族様の交流の場として活用していきながら、つながりを作り、こども達・ご家族の生活が豊かなものになるよう医療現場や福祉現場だけではない部分で支援していく。</p>																		

(第6条関係)

事業の予算概要

【収入】

(単位：円)

科目		金額	積算内訳
団体	事業収入	¥ 10,000	200円(参加料) * 50家族(1家族3名参加を想定)
	事業収入	¥ 30,000	3,000円(企業ブース料) * 10企業
		自己資金の合計額 (A)	¥ 40,000
市	市民活動助成金 (B)	¥ 100,000	
合計額 (C) = (A+B)		¥ 140,000	

【支出】

科目		予算額	積算内訳
助成金の交付対象経費	報償費	¥ 40,000	外部講師謝礼(2名分) 20,000円 * 開催中に2本の講演会を予定
	消耗品	¥ 12,000	文房具代 7,000円 ボランティアスタッフ 晩章 100円 * 50人
	食糧費	¥ 31,200	講師・ボランティアスタッフの弁当・水代 600円 * 52人
	印刷製本費	¥ 3,500	ポスター印刷代 5円 * 550部 当日資料印刷代 5円 * 150部
	使用料及び賃借料	¥ 20,000	会場使用料
	通信運搬費	¥ 4,100	切手代 82円 * 50施設(対象児の関係機関、病院、障害施設、行政等へ案内送付)
	保険料	¥ 4,200	ボランティア行事用保険 28円 * 150人
		対象経費の合計 (D)	¥ 115,000
その他経費	交通費	¥ 25,000	ボランティアスタッフの交通費 500円 * 50人
	その他経費の合計 (E)	¥ 25,000	
合計額 (F) = (D+E)		¥ 140,000	

【チェック項目】

- 1 助成金 (B) が対象となる経費 (D) 欄の90%以内、自己資金 (A) 欄が対象経費 (D) 欄の10%以上であること。
- 2 助成金 (B) が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。